

第21回「東京ゲームショー2017」が開催

神谷 直亮

コンピュータエンターテインメント協会 (CESA) が主催する「東京ゲームショー2017」が、9月21日から24日まで幕張メッセ (千葉県美浜区) で開催された。同協会の発表によれば、「36カ国・地域から609社・団体 (国内292、海外317) が出展し、事前届け出のあった出展タイトル数は1,317に達した。しかし、総登録入場者数は254,311人とどまり、残念ながら昨年の271,224人には及ばなかった」という。

第21回を迎えた今回の会場の特色は、まず、中央の5ホールにソニー・インタラクティブ・エンタテインメント、バンダイナムコ・エンターテインメント、スクエア・エニックス、セガゲームス、カプコンのビッグ5が最大級のブースを構えて競った。

次いで、9、10、11ホールには、VR/ARコーナーが設けられ、5カ国・地域から45社・団体が出展して業界に新しい風をもたらしていた。VR/ARの出展タイトル数については、「昨年の110を上回る117」と発表された。

さらに、11ホールに「e-Sports」関連のセッションやイベントを体感できる大型ステージ「e-Sports X (クロス)」が設営されており、多くのファンが押しかけた。CESA事務局によれば、プロゲーマー同士が白熱の戦いを繰り広げるこのイベントの様子は、「ニコニコ」「Twitch」「douyuTV」を通じ、世界に向けてライブ配信を試みるという。

このようにゲーム業界は拡大基調にあり、とうていすべてをカバーしきれなかった。本稿では、世界的に新しい潮流になりつつあるVR/ARを中心にレポートする。

「さあ、現実を超えた体験へ」をテーマに掲げたVR/ARコーナーで目を引いたのは、VAQSO、HTC (宏達国際電子)、JPW Internationalの大きなブースである。

VAQSO社は、視覚 (VR) と嗅覚 (匂い)



写真1 VAQSO社のブースでは、視覚 (VR) と嗅覚 (匂い) をマッチさせたユニークなデモが行われ注目的になった。

をマッチさせるユニークなデバイス売り込むことで注目的になった。今回、同社のブースには、このVAQSOデバイスを装着したVRマウントディスプレイ (HMD) を使うデモが、アルファ・コード、シス、スクエア・エニックス、AOI Proの4社により行われた。

アルファ・コード社は、レストランで、女性のお客がカレーライスを口にするとカレーの匂いをプンプン発するVRコンテンツを前面に押し出していた。コンテンツの制作に同社の「VRider Direct」を駆使しているのと、デモ用のHMDにクリーク&リバー社の一体型「アイディアレンズK」を採用しているのが特色である。同社はこれ他「VRider Direct」の活用事例として、朝日新聞社が報道用に使用しているという「News VR」も紹介した。

シス社は、「VRサクラ」と題するコンテンツで、スイカやチョコレートのVR映像と香り同期させ、スクエア・エニックスは、「乖離性ミリオン・アーサーVR」で女性の登場に合わせて香水のリアルな香りを出す趣向を凝らしていた。

台湾のHTC社は、昨年4月に販売を開始したHMDの「VIVE」とこれに連動する特製のハンドトラッカーの組み合わせで日本のVR業界ではよく知られた存在になりつつある。今回、同社のブースで注目を集



写真2 JPW Internationalのブースでは、いろいろなモーション器具を使ったアクションVR体験の場が提供された。

めたのはモデルガンを駆使する「4人マルチプレイシューティングゲーム」であった。また、同社のブース内にバスキュール社がブースを構え、「VRリアル・データ・ベースボール」のデモを行った。ハンドトラッカーをバットやグローブに縫い込んで、プロ野球のリアルタイムデータに基づく強烈なプレイを実感してもらうというのが狙いである。

同じく台湾に本社を構えVRアーケードを専門とするJPW Internationalは、HTC、モーション機器メーカーのInjoyMotion、ワークステーション・メーカーのMSI、コンテンツプロバイダーのクレッセントの4社と組んで出展した。ブースには、バイク、馬、スキー、サーフィンボードなどのモーション器具が並んでおり、これらに乗ってアクションVRを体験しようという来場者が長蛇の列を作っていた。

上述した3社以外に目に付いたのは、H2L、ピコ・テクノロジー、トビー・テクノロジー、フォーラムエイトである。

「あなたの手が、世界を動かす」という刺激的なキャッチフレーズを掲げたH2L社は、オプティカル・アクティブ・センシングと呼ぶ新技術とAIを融合させたVRシステム「First VR」を出展し、今年12月から発売するとの発表を行った。説明員によれば、「H2Lは、東大発のベンチャーで、



写真3 H2L社は、軽くてコンパクトなHMDと筋変位コントローラーを組み合わせたVRシステムを紹介し注目を集めた。



写真4 ピコ・テクノロジーは、「PICO Neo」「PICO Goblin」「PICO CV」の3種のHMDのPRに余念がなかった。



写真5 ソニー・インタラクティブ・エンタテインメントは、8本のVRコンテンツを揃えて、大勢の来場者に「PS VR」の試遊を促していた。

軽くてコンパクトなHMDとスマートな時計をイメージした筋変位コントローラーを組み合わせたVRシステムを開発している」という。「Unlimited Hand Lite」と呼ばれる光学筋変位センサーを内蔵したコントローラーは、わずか34グラムと軽量に仕上がっており抵抗感が少なかった。今回、H2Lブースで紹介されてコンテンツは、「フジテレビ登り」「母ご乱心～日常破壊ストレス発散ゲーム」「FV Wizard～魔法使いアクションゲーム」の3本であった。ブースでは、今回のショーを契機に「First VR」の予約の受付を初めており、定価9,880円の製品を特別価格8,890円で売り込んでいた。

中国から出展したピコ・テクノロジーは、「PICO Neo」「PICO Goblin」「PICO CV」の3種のHMD製品を並べてPRに余念がなかった。「PICO Neo」は、PC接続でもスタンドアロンでも使える。一方の「PICO Goblin」は、ワイヤレス専用のHMDである。両機種ともクアルコム社製のプロセッサ Snapdragon820を内蔵し、高いレンダリング機能を誇っている。「PICO CV」は、今年末に発売を予定しているというハンドトラック連動型の最新鋭HMDである。

トビー・テクノロジーは、同社が得意とするアイトラッキングとVRを組み合わせる「Tobii Pro VR」を披露した。今回ブースでは、HTC製VIVEに同社のアイトラッキング・テクノロジーを組み込んでデモを実施していた。コンテンツは、視線操作に焦点を合わせて行うシューティング・ゲームで、コンセプトは、昨年、出展して注目を

集めた米国のFOVE社製視線追跡型HMDに似ているように思われた。

フォーラムエイトは、今回非常に興味深い2件のVRデモを行った。1件は、Oculus Riftを使用してジェットコースターに試乗するデモで、もう1件は、「鐵(Kurogane)」と名付けた鉄道ゲームである。後者では、目の前に迫ってくる岩やモンスターなどを避けるために電車のスピードを調整したり、線路を切り替えたりしながらゴールを目指すゲームが楽しめた。同社のブースの一角では、「VR Gesture Crane Game」と名付けた新しい試みも行われていた。その名称の通りジェスチャーを感知するセンサーが設置されており、高速道路を走る車を吊り上げてUFOのような物体に送り込むという面白いゲームであった。促されるままにトライしてみたが、なかなか車を吊り上げられなくて苦労した。うまくUFOに乗り移らせるとハートのマークが画面にちりばめられるというおもしろいゲームだった。

最後になったが、VRの分野では、ソニー・インタラクティブ・エンタテインメントの存在を無視することができない。今回、同社は、「グランツーリスモSPORT」「V! 勇者のくせになまいきだR」「サマーレッスン」:

新城ちさと七曜のエチュード」「BRAVO TEAM」など8本のタイトルのVRコンテンツを揃えて、大勢の来場者に「プレイステーションVR (PS VR)」の試遊を促していた。

なお、VRのプラットフォームとタイトルに関連して、CESA事務局が下記のような興味深いデータを公表したので参考までに紹介する。360度の動作追跡を可能にする卓越したプレイ感覚を特色とするHTC VIVEが急激に伸びているのが注目される。

(プラットフォーム) (2017年のタイトル数) (2016年のタイトル数)

PS VR	13	29
Oculus Rift	29	30
HTC VIVE	44	24
GEAR VR	9	7
その他	22	20

Naoakira Kamiya
衛星システム総研 代表
メディア・ジャーナリスト

HD TV, 3D TV and IP OVER SATELLITE ECO OPERATION

スマート・サテライト・ニュース・ギャザリング

http://www.bizsat.jp

ニッサン新エルグランド4WD
5名定員
1.2m径・自動捕捉アンテナ搭載
車高2.2m 以下 (地下駐車場可)
3.6 KVA NMG アイドリング運用
水圧エコ・ボール4m 搭載
強化サスペンション
国内 (100V) 海外 (240V) 対応
IPコントロール
ハイビジョン映像伝送
運転席からワンマンオペレーション

設計・製造・衛星通信のことなら
エーティコミュニケーションズ株式会社
TEL: 03-5772-9125

A Communications k.k.